

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年11月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300971
法人名	なごみ福祉会
事業所名	グループホーム青い鳥
所在地	(電話) 0994-46-3056
自己評価作成日	平成30年8月23日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入所者のことを自分の家族(父親・母親・姉)と思いやさしく接するようになっている。その為大きな声で抑制したり、上から目線で話すことが無く、笑い声がよく聞かれる施設です。また毎朝リハビリ体操で身体をほぐし、大きな声で青い鳥学校と草津節の替え歌を歌い1日をスタートしています。年間行事には子供達と接する機会を多く設け、職員、入所者に元気を頂き地域との交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、古江漁港に面した位置にあり、春は近隣の公園沿いの桜並木の花見見物に出かけたり、隣接のデイサービスや住宅型有料老人ホームの入居者との合同レクや行事へ参加したりするなど利用者が、地域の方との交流を目的とした活動に積極的に参加できるよう取り組んでいる。
- 管理者は、地域と顔の見えるお付き合いができるよう考えており、サポートワーカーの資格を取得し、認知症や介護の相談窓口になったり、最近まではオレンジの窓を開催し、認知症の勉強会をしたり、リズム体操や物療療法、お茶会をするなどして交流活動に参加していたが、現在はオレンジカフェに移行している。地域とは、中学生の職場体験の受入れや保育園児と毎年の七夕飾り作り、運動会予行練習やお遊戯会の見学、古江の夏祭りの見物など恒例行事になっており、地域住民の方とも顔馴染みになっている。また、昨年11月、津波を想定した合同の防災訓練にも参加している。
- 訪問診療にて適切な医療が受けられているが、利用者によっては、主治医が担当者会議に参加している。「重度化した場合における対応にかかる指針」があり、医師や訪問看護ほか関係機関や家族、職員と連携を図りながら、現在看取りを実施している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「入所者を自分の親と思い優しく接し、地域の中で生き生きと暮らせるように支援する」を理念とし、管理者と職員は良い関係が築けている	理念は、共有スペースや事務所などに掲示され、3年前に見直し、家族会にて理念への思いを家族や職員とともに共有している。職員は日頃から利用者に対し常に親のように接するよう心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入所者の知り合いがデイサービスに来る日は、逢って話死してもらうことや、散歩の時近所の方々と触れ合う。また、オレンジカフェで交流を図っている	代表者が、町内会の総会や会合などを通じて地域の情報収集をしたり、職員と情報共有している。地元の行事への参加やボランティアの受け入れ、オレンジの窓を通じて地域交流したり、キャラバンメイトとして認知症の啓発活動に協力するなど地域貢献している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	サポートワーカーが偶数月に地域の方々に声掛けして、認知症オレンジカフェを開催し認知症の話や予防の為の取り組みを行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し報告した件について意見をもらう為、民生委員や町内会会長、市議員さんがたに交代で出席依頼している。参考になる意見がもらえ業務の改善に繋いでいる	会議には、保育園の職員や消防団長、中学校の職員など多方面から出席があり、地域の課題を検討したり、ホームの現状を理解してもらい協力関係を築いている。地域とは、津波想定合同訓練を実施しているが、地域の方の避難場所の提供をしたいとも考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点は直接市役所に確認している、また運営推進会議には包括支援センター、市役所職員が交代で出席して情報を得ている	市職員や福祉事務所職員とは、日頃から電話やメール、FAXなどで連絡を取り、ホームの実情を理解いただきながら、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修等に参加、職員全員が良く理解して拘束のないケアを行っている	身体拘束廃止委員会があり、内部研修にて知識や技術を研鑽している。徘徊感知機器の活用があるが、毎月、職員会議で話し合っている。管理者は、今年度法改正もあり、身体拘束等の適正化に関する指針についても検討する予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については研修等に参加して職員は良く理解しているが、入所者の行動に対し言葉で強く否定する職員がいる為注意することがある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	し自立支援事業や成年後見制度について、研修には交代で参加し研鑽のきかいに努めているが、研修そのものが少ない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に詳しく説明を行うが、内容変更時は、ご家族を招集し同時に説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関出入り口に意見箱を設置し手铸るが、意見が寄せられた事は一度もない為、敬老会及び家族会とお花見に要望や意見を聞いて業務に反映させている。</p>	<p>管理者や職員は、利用者や家族と行事や家族会などの面談を通じて意見、要望を聞き取るようにしており、出された意見などは、サービスの向上に繋がるよう取り組んでいる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の職員会でみんなから意見を聞いてよい提案があれば職員同意の元導入して反映させている</p>	<p>管理者は、随時職員と面談したり、気づきノートを活用し、業務改善に取り組むなど、サービスの質の向上を図っている。また、職員の能力に応じた職場環境を検討したり、親睦会や忘年会などを通じて職員の関係性を深めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の努力や実績に関して処遇改善費が支払われている。また業務を通じた職員間の情報交換や連携、積極性も処遇改善の査定に入っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や職員が介護の質の向上に努められるよう必要な研修に参加してもらっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修に参加するとグループワーク等で交流を図り、お互い分らない事に関して情報交換しあっている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用開始時家族から情報を頂き、職員は利用者の不安な状況を理解して穏やかに過ごせるよう配慮している</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所直後は身内の事が気がりだと思うので生活状況を詳細に報告し安心できるように配慮している</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所時本人や家族が一番問題視していることに対し、優先して対応する事で関連している課題も解決できるようにしている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>洗濯物干し、たたむ、テーブルやお盆拭き、野菜の下ごしらえ等本人の能力にあわせ手伝って頂きお互い、支えあっている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者の生活がより充実したものになるよう、お互い意見交換しながら支えあっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者が馴染みの人と交流できるように通所の日を利用して逢わせる。また地元なら自宅まで足を伸ばし自宅に連れて行く	高齢化もあり、友人、知人の面会者は減ってきているが、隣接のデイサービスなどで交流がある。馴染みの場所でもある、お寺参り、漁港などに出かけ地域の方々と交流している。家族は、行事など折に触れて面会に来られ本人との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者間の信頼関係を深めるために席替えを行い昔の生活等について話ができるように職員が胸痛の話題を提供し話ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡による退所や移設等により契約が終了しても、次の契約に繋がったり、紹介頂くこともある為、時々連絡している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に家族から自宅での生活について聞き取り、本人の希望を繰り返し聞きながら本人の意向に合わせている	職員は、認知症の進行を考慮し、気が合う人同士席次を工夫するなどしてコミュニケーションが図れるよう配慮したり、言動を把握し、「気づきノート」などを活用して本人の思いに触れ情報を共有するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い頃の職業や趣味、結婚後の生活、子供の現状等、自宅生活時利用していたサービスについて情報を把握するように努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活の中で見えてくる生活習慣や、心身状態、隠れ持っている能力の把握に努めている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は入所者がより良い生活をするために、家族、ケアマネに詳細を報告し、職員間で情報交換した上で、計画やモニタリングに反映している	担当者会議に主治医が参加される方がおられたり、家族に会議への出席を呼びかけなるべく参加を促し、介護計画について一緒に話し合いができるよう取り組んでいる。短期目標の期間に合わせてモニタリングを実施、見直しなどについても柔軟に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の一人ひとりの体調や気分、排泄状況等について詳細に記録し、そこから見えてくるニーズをプランに落とせる様、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者や家族の状況に応じて発生するニーズには、看護師や介護福祉士等の専門職の知識をもって、柔軟に対応できるように協力体制を整えている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の行事等の地域資源を把握し、本人が自分の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望する医療機関と契約し訪問診療を受けているが、病状により必要なら他の専門医に紹介状を書いて頂き受診している。家族にも病院に来ていただく	訪問診療にて診察を受けているが、医師への情報伝達のため、「申し送りノート」があり活用されている。他科受診などは、職員が対応し家族に連絡、必要に応じて家族に同席を依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設の職員間でも状態を記録に残し、きちんと報告や確認ができるようにしている。また外部の訪問看護とは連携ノートで情報提供している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された方のサマリを作成し、本人の既往歴や施設での生活状況がすぐ分るようにしている。また病院関係者との連携について、担当の名前を確認し連携体制を整えている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合家族の要望を優先し主治医と訪問看護、職員の3者が終末期に向けた方針を共有し、終の棲家として穏やかに安らかに過ごせる環境を整える	重度化や終末期における指針や急変時の意志確認書があり、契約時に説明し同意を取っている。これまでに看取りの経験があり、現在も看取りを実施しており、主治医や訪問看護などと医療連携が図られている。職員は、看取り終了後今後のケアに繋がるよう職員会議で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変については日常的に起きるものではないので職員は自信がない。また、緊急時対応の受講も本署まで出向いていく必要があり難しくなっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災訓練を通じて地域の方々に協力をもらえるようにしている。また、職員は避難訓練を繰り返し実施して、非難の手順や出火場所が異なる場合、安全に避難できる経路を確認している。</p>	<p>年2回、消防署立ち合いにて法人合同で夜間や津波を想定し避難訓練を実施している。地域は、消防団の協力体制があり、11月は防災機器の点検を業者に依頼している。備蓄は、4～5日分程度確保しており、被災者などの受入れにも柔軟に対応したいと考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを尊重し傷つけることがないように注意しているが、1部の職員が大きな声で説得し続ける事があり職員を注意した	管理者は、職員が不適切な声かけや対応がないよう注意深く見守り、その都度注意するなどして利用者の尊厳やプライバシーに配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを理解するにはそれなりの時間を要するので、入所者と向き合い希望を聞き出し自己決定できるように声掛けする。自分の親だと思いき接する事で本人の思いや希望を聞きだせることがある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団の行動に抵抗無く喜んで参加できる人は良いが、そうでない人もいるので、その人のペースにあわせ休息をとってもらい無理のないように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に合った好きな洋服を入れ替えながら着てもらおう。身だしなみやおしゃれが出来るように、3面鏡を見てもらい清潔にしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を利用して自宅で食べていたようなものを作っている。時には下ごしらえの手伝いをしてもらう。咀嚼力によりミキサー食や刻み食、軟菜にして食事にかんしてストレスのないようにしている。食べ残しは刻むと食べてくださる	食事形態を工夫し、誤嚥なく食べやすくしたり、能力に応じてお手伝いをいただき食への意欲や興味、季節感が味わえるよう支援している。夕食だけは専任の調理担当が配置されている。職員は、誕生日や行事食にも趣向を凝らし、外食は家族と一緒に楽しんでいる。地域の方からの差し入れを料理に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専属の栄養士ではないが相談して高齢者の1日の摂取量やバランスを考え提供している。水分は制限のある人、制限のない人に量を調整して豆乳、OS1、麦茶、お茶を飲んでいただく		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、朝食後、昼食後、夕食後全員のケアを行っている。自分の歯があり磨ける方には最後に口腔洗浄液で仕上げる。口腔内にトラブルがあれば日本歯科医師協会へ連絡しDrに来て頂く		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全介助でおむつ、フラット、尿とり2名、排泄訴えあり布パンツと尿とり1名、紙パンツと尿とり6名。6名の中には便失禁無ければ布パンツと尿とりで過ごせる人もいる。排泄習慣を把握して便失禁させず、トイレでの排泄が出来るように配慮して上手くいったら共に喜んでいる	排泄のリズムを整えながら、トイレやポータブルトイレを併用し排泄の自立支援を実践している。職員は、排泄をテーマに勉強会を実施している。また、便秘予防のため食事や水分補給、運動を取り入れ、なるべく薬に頼らないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は食事や水分摂取量等が不足して起きるので、食物繊維の多い野菜と毎朝ヨーグルトを提供している。また、運動は毎朝リハビリ体操とタオル体操を行い、個人的に歩行訓練や足上あげ、レクでの体動を促している。便秘薬での微調整も行う		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1日おきに午前中の中入浴となっているが、朝は入りたくないとか、午後を希望する事もない為それで提供している。稀に入浴を拒否されたら無理に入れないで時間おき声掛けしたり翌日にずらす。便失禁等あれば時間に関係なくシャワー浴行方。	歩行困難な方もおられ浴室への移動や洗身介助のためシャワーキャリーを活用している。看取りの方も安心して入浴できるよう配慮し、入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も居眠りされる方が多いので転落等しないように配慮してくつろいでもらったり、眠気が強い時は居室で休んで頂く。夜間は室温や照明、騒音等に注意し眠れるように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品名は同じ薬であっても製造する会社や、ジェネリック品により名前が変わる為、努力してもなかなか覚えられない。また、入所者の病状に合わせて処方される薬について主な副作用等は送りノートで皆が理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に散歩やレクリエーション、お手伝いによる達成感等楽しみを見つけ気分転換を図っていただく。年間計画では初詣、アジサイ見学、園児との交流会3回、生徒の体験学習2日間、花火大会、家族会及び敬老祝賀会と気分転換を図る		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には海まで行き潮風にあたり、お寺参りも喜んで下さる。帰宅願望の強い方には自宅に連れ帰ってもらうことがある	天候や体調を見ながら、ホームから海岸、公園付近を職員と散歩したり、家族の協力をいただきながら、自宅訪問している。職員は、利用者の希望を確認しながら、年間の外出計画にて、計画的に外出を支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>2年前まではボランティアを頼みスーパーまで買い物ツアーとして出かけていたが全体のレベル低下で実現していない。週1回パンやさんがくるので、自分で選び購入する人もいる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>県外に住む子供達に対して電話で話してもらうことがある。又請求書を発送する際、手紙の中に写真を入れて近況をお伝えすることもある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間が狭い為不自由をかけることもあるが、不快感を与えることがないようにして、快適に過ごせるように温度や騒音等に配慮している。トイレは常に清潔な空間として1日3回の掃除と汚染時すぐ掃除して快適に使ってもらう。玄関や洗面所は季節の草花を飾り季節感を味わえる</p>	<p>対面式キッチンで、食堂にはテーブルと椅子が配置され、廊下には肘掛付3人掛けソファがあり、廊下に設置された手すりを使って職員に見守りされながら筋トレをされる方もおられる。寒暖計を活用し温度管理され、空気清浄機、加湿器など完備して住環境を整備している。また、季節の生花が活けられ季節感を取り入れている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂やホールでは席を固定せず、気の合う人と過ごせるようにしているが、狭い空間なので一人にはなれない</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室は馴染みのタンス等を置きくつろげる空間としている。海が見える部屋もある。花火大会も部屋から楽しめる	お気に入りのぬいぐるみやひ孫の写真、遺影、寝具など使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごしている。転落防止用の予備のマットレスがあったり、家族や面会者などが居室でゆっくりと歓談できるようソファが配置されている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	歩行する場合は手すりが切れ目なく設置されており一人でも移動できる、洗面所では自分で磨いて頂くために安定したイスに座ると両手が解放され、義歯とブラシを持てる		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない